

『一年の計は元旦にあり、一生の計は勤にあり、一家の計は身にあり。』

「一年の計画は元旦に立てましょう、そしてその積み重ねの一生はまじめに働くかどうかで決まり、一家の将来は健康で過ごすことできます。」という意味になります。

皆さんも、12月31日の大晦日までに今年一年を振り返り、1月1日の朝、元旦に新年の目標・計画を立てましょう。

現役引退後、MLB シアトルマリナーズで選手の指導に当たっている元プロ野球選手・イチロー氏は近年、日本全国の高校野球でスポット的に指導を行っていることが知られている。そのイチロー氏が先日、訪れた高校で以下のような発言をしたことが大きな話題となっている。

〈「今の時代、指導する側が厳しくできなくなって。何年くらいなるかな。僕が初めて高校野球の指導にいったのが2020年の秋、智弁和歌山だね。このとき既に智弁の中谷監督もそんなこと言ってた。なかなか難しい、厳しくするのはと。でもめっちゃくちゃ智弁は厳しいけど。これは酷なことなのよ。高校生たちに自分たちに厳しくして自分たちでうまくなれて、酷なことなんだけど、でも今そうなっちゃっているからね。(中略)でも自分たちで厳しくするしかないんですよ。ある時代まではね、遊んでいても勝手に監督・コーチが厳しいから全然できないやつがあるところまでは上がってこられた。やんなきゃしょうがなくなるからね。でも、今は全然できない子は上げてもらえないから。上がってこられなくなっちゃう。それ自分でやらなきゃ。なかなかこれは大変」と様変わりした現代では、選手がより自身を律することが求められる過酷さを指摘した。〉

(2023年11月6日、スポニチアネックス

【イチロー氏「指導する側が厳しくできない、時代の流れ、酷だけれど・・・自分たちで厳しくするしか」】より引用

今年の3月、野球の世界一を決めるWBCが開催されました。アメリカメジャーリーグで活躍するダルビッシュ選手や大谷翔平選手が、野球を思い切り楽しむ大切さを他のメンバーに伝え、今までのジャパンチームには見られなかった、プレッシャーを楽しむかのようなプレーが随所に見られました。決勝のアメリカ戦を前にしたミーティングで、大谷選手が「今日だけは憧れるのをやめましょう。」と仲間を鼓舞し、サムライジャパンは見事世界一に輝きました。

また、夏の甲子園では、エンジョイベースボールを掲げる慶應義塾高校が、夏連覇を狙う仙台育英高校を破り日本一になりました。慶應義塾高校の選手達は、これまでの高校球児のイメージにはないサラサラヘアをなびかせ、笑顔でプレーしていました。

これまでの日本のスポーツ界では、「がんばれ」「あきらめるな」「根性見せろ、気合いだ」と指導者はよく口にしてきました。「辛い厳しい練習に耐えることで基礎が身につく、それを乗り越えることで成長できる。」「楽しんでいても強くなれない。」とする傾向が強かったと思います。

時代は変わり、指導者は選手の長所を伸ばし、選手は自己の目標を立て、自主性を持って練習することが求められています。

勉強でも部活動でも、先生や指導者から、「これをやりなさい、あれもやりなさい。」と強制されないことは、確かに楽なことです。しかし、強制されないということは、裏を返せば、自分で考えて、自分でやらなければならないということです。私を含め、人は弱いものです。隙あらばサボりたいと考え、楽な方へと流れてしまいます。

近年では部活動でのハラスメントや体罰が問題になることが増え、指導する側も、厳しい指導に二の足を踏む傾向が強くなっています。

ここで、イチロー氏の言葉を考えてみます。

時代の移り変わりによって、旧来行われていたような「厳しい指導」がされなくなったことについて、イチロー氏は「子どもたちにとって酷なこと」と、世間の流れに反する表現をしています。皆さんはこの言葉をどうとらえますか。

皆さんには、それぞれ成し遂げたい夢・目標があると思います。皆さんにとって酷なことかもしれませんが、是非、自分でしっかりと目標を定め、毎日その達成に向け努力を続けてください。そして、自分だけで前に進めないときや、途中であきらめそうになったときは、遠慮せず、先生方や保護者を頼ってください。いつでも皆さんに手を差しのべる準備はできています。

3学期始業式に、皆さんと笑顔で会えることを楽しみにしています。